

院生、若手研究者への アピール

学問・研究の民主化を！
民主的討論の場を！

内なる、外なる
古田体制との訣別を！

日大大学院理工学院生自治会

過去、数ヶ月にわたる中央集権化した学部当局が、強権的に行ってきた「授業再開のため」と称するロックアウトは、「一切の話し合いの場、また自主的話し合いの場」を次々から奪い去ることにより、これまで露呈されてきた多くの矛盾、不正を、隠蔽し、「日大を民主化しよう」とする我々の正当な意図をも圧殺しようとするものにほかならない。

去る3月8日龍谷館における院生との団交において、大学院分科委員会自ら無能ぶりを暴露し、日大においては大学院制度そのものが存在していなかったことを認めた。それ以後我々は数々の折衝(4月7日、5月7日、6月4日)を重ね、大学院制度の根本的変革を要求してきた。

しかしながら、大学院分科委員会はその位置づけについて何らの説明もせず、3月8日院生団交後2ヶ月半も経たず5月末にやっと大学院委員を正式に任命したのみという振舞である。さらに5月5日以降のロックアウトも解除こうとせず、教職的授業再開により「研究なしの状態」を強制している。

おのれ学問研究の場において、悉く院生と若手研究者が一方向的に活動の場を奪われ、保守性につら極められた強権的支配に追従して良いものであろうか？

今や、全ての院生、若手研究者は、内なる古田体制：専断的支配と対決しつ、日大を学問・研究の民主的な場とすべく、決してゆがねばならない。

1969.7.7 - TANABATA -